

関連項目：教育活動プラン①、④

## 役割を果たす喜びを味わう岩黒愉快村

### 目的

本校は、小・中学校の併設、小規模校の特徴を生かし縦割りグループで、毎年1泊2日の宿泊学習を行っています。自分たちで決めた活動の成功に向けて協力する中で、役割の価値や責任感の大切さを学びます。また、集団で生活することで、自分のことだけを考えてはいけないことに気づき、集団としてのルールを身につけるとともに、活動をとにもすることで、他の児童生徒の良さに気づき、連帯感を深めています。

### 内容

愉快村とは、岩黒の自然の中や学校で行う宿泊学習です。

#### ●児童生徒会活動

実施日（7月下旬）の約2ヶ月前から、児童生徒会が中心となって、愉快村の目標・日程・計画や、朝食・昼食のメニュー、縁日のメニュー、スポーツ大会の種目等について話し合いを行います。その内容を、各クラスにもち帰り愉快村の実施に向けて役割分担を行います。なお、班編制については、小学校から中学校までの縦割り班2班を教師側で作成し、児童生徒会に提案します。

#### ●活動の実際

##### ①うどんづくり

児童生徒が、すべての食事作りを行います。1日目の昼食はうどんでした。2班が協力して行い、中学生がうどんをのばしたり、かまどの準備をしたり、ゆでたりします。そして、小学生が発達段階に応じてうどんの具を切ったり、だしを作ったり、食器を洗ったりします。全員が協力しないと時間に遅れて次の作業ができなくなります。

##### ②キャンドルサービス

キャンドルサービスは、迎え火の集い、交歓の集い、送り火の集いの3部からなり、中学生がリーダーシップを発揮し、計画・運営にあたります。特に、2部の交歓の集いのスタンプやゲームは約2週間前より中学生が中心となって練習を行っています。今年度は、ゲームの司会を小学生高学年が行い、少しずつ小学校にも役割を分担しつつあります。

##### ③いかだ作り

地域の漁師さんに講師になってもらい、2班でそれぞれいかだづくりを行います。実際に港に浮かべて競争します。この作業も小中の児童生徒が協力することで、達成感を味わうことができます。



### 成果

#### 児童生徒の感想から

小学生は、自分ががんばった内容を書いており、活躍の場が与えられ自尊感情の涵養を伺うことができます。また、中学生は、リーダーとしての役割や来年度の決意を述べている者が多く、自分を見つめ生き方を考えることができます。

なお、教師による評価では、「今回の行事の計画・内容について」「児童生徒の活動について」「教師間の連携・協力について」「本校の教育目標との関連について」の項目ですべて3以上（4段階評価）とよい結果となっています。